【路線の現状】※1			【路線の課題】		
対象年度	2020年度		課題① 二次交通のアクセスが悪く陸羽東線の円滑な利用に繋がられないため、陸羽東線の利便性が向上する環境づくりが必要。		
対象区間	古川 - 鳴子温泉	鳴子温泉 - 最上	課題② 陸羽東線の観光面での訴求力が弱いため、地域の観光資源を活用し、ここでしか味わえない車窓風景と体験機会の創出が必要。		
平均通過人員※2	666人	41人	課題③ 利用者が限定的で、沿線住民の路線活用に対する意識が希薄であるため、地域や世代を超えた利用促進の意識醸成が必要。		

【取組の方向性】
<p>① 地域の公共交通の基軸となる生活路線として、二次交通の充実に加え、沿線に人が集まるような地域づくり、まちづくりに取り組む。</p> <p>② 宮城県と山形県を繋ぐ、自然・景観、歴史ある施設等の観光資源豊富な観光路線として、鉄道利用による交流人口の拡大に取り組む。</p> <p>③ 沿線地域を想う多くの人達に愛され、寄り添うマイレール路線としての機運醸成を図り、地域や世代を超えた利用促進に取り組む。</p>

【取組ポイント】	【具体の取組】	
	タイプA 住民関係 沿線住民の利用拡大・意識醸成	タイプB まち関係 駅を起点としたまちづくり
<h3>住民関係</h3> <ul style="list-style-type: none"> 日常利用増加に向けた機運醸成 日常利用の利便性の向上 マイレール意識の醸成 日常以外の利用増加に向けた機運醸成 	<p><日常利用（通勤通学等）の増加に向けた機運醸成></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎自治体職員による通勤利用による日常利用の機運醸成（大崎市） ○エコ通勤優良事業所認証制度の普及による日常利用の醸成 <p><日常利用（通勤通学等）の利便性の向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎パーク＆ライドの実証事業による日常利用の利便性向上（大崎市） ◎住民バス等の運行ダイヤ等の調整による日常利用の利便性向上（大崎市・美里町） <p><マイレール意識の醸成></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ロゴマーク等の作成を通じた利用促進に向けた住民のマイレール意識の醸成（大崎市） ○沿線住民主体の利活用促進企画プロジェクトチーム立ち上げによるマイレール意識の醸成 <p><日常以外の利用の増加に向けた機運醸成></p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中学生等に鉄道を利用してもらうため、校外学習などでの利用の呼びかけ 	<p><駅前のイベント開催による鉄道を利用する人流の創出></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎地域おこし協力隊活動による駅周辺のまちおこしを通じた鉄道を利用する人流の創出（美里町） <p><駅周辺の整備による交通結節点としての駅の機能の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎パーク＆ライド事業実証事業による駅の機能強化（再掲）（大崎市） ◎小牛田駅周辺や駐輪場の整備を通じた駅の機能強化（美里町） ○古川駅構内の旧商業施設の整備や駅前広場の整備等を通じた駅の機能強化 <p><二次交通の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎住民バスなどの運行ダイヤ等の調整を通じたターミナル機能の強化（再掲）（大崎市・美里町） <p><中長期的に沿線へ人が集まる地域づくり・まちづくりの推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎西古川駅周辺への日本語学校の整備による中長期的なまちづくりの推進（大崎市）
<h3>まち関係</h3> <ul style="list-style-type: none"> 駅前イベント開催による人流の創出 駅の交通結節点としての機能強化 二次交通の充実 鉄道利用を促進する中長期的なまちづくり 	<h3>タイプC 観光関係 交流人口と鉄道の利用拡大</h3> <p><地域資源を活用した鉄道利用の拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎観光写真コンテストへ新たに車窓部門を設けることによる地域資源を活用した鉄道利用の促進（大崎市） ◎駅フェス「MISATO」の開催支援通じた鉄道利用と交流人口の拡大（美里町） ◎身分証アプリを活用したスタンプラリーの実施による鉄道利用の促進（宮城県） ○沿線の観光地やオルレコース等と関連したイベントの開催による鉄道を利用する交流人口の拡大 ○世界農業遺産「大崎耕土」との連携による鉄道利用による交流人口の拡大 <p><沿線地域とJR東日本の更なる連携強化による新たな鉄道需要の創出等></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎陸羽東線を利用して鳴子温泉郷に宿泊した利用者に対する特典付与（大崎市） ○陸羽東線を利用する観光モデルコースの企画による鉄道利用の拡大 ○企画列車の定期運行による新たな鉄道需要の創出 <p><県内4路線の連携した需要喚起策の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の観光資源を活用した県内ローカル線を利用する観光モデルコースの企画による鉄道需要の創出 	<h3>タイプD 産業関係 人や物の往来拡大による地域産業の活性化</h3> <p><沿線の事業者と鉄道の利用者をつなげた産業の活性化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○産業連携の促進による新たな産業創出や雇用の創出
<h3>観光関係</h3> <ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活用した鉄道利用の拡大 地域とJRが連携した新たな鉄道需要の創出 県内4路線の連携した需要喚起策の実施 		
<h3>産業関係</h3> <ul style="list-style-type: none"> 沿線の事業者と鉄道の利用者をつなげた産業の活性化 		

※取組みの分類
 ◎：実施済、実施中、実施予定
 ○：実施に向けて検討中

※1 2022年7月28日 JR東日本ニュース「ご利用の少ない線区の経営情報を開示します」から引用
 ※2 利用者の1日1kmあたりの人数【平均通過人員】＝【各路線の年度内の旅客輸送人キロ】÷【当該路線の年度内営業キロ】÷【年度内営業日数】

【路線の現状】※1		【路線の課題】
対象年度	2020年度	課題① 他の路線等との接続が悪く利用しづらいため、石巻線の利便性が向上する環境づくりが必要。 課題② 通勤・通学客が利用する平日の朝と比べ平日の日中や休日の利用者が少ないため、ターゲットを絞った利用促進策が必要。 課題③ 沿線地域はマイカー利用が多い地域であるため、過度にマイカーに依存しない意識の醸成が必要。
対象区間	小牛田 - 女川	
平均通過人員 ※2	953人	

【取組の方向性】
<p>① 地域ターミナル機能を有する石巻線や小牛田駅を中心に地域の公共交通の基軸となる生活路線として、鉄道利用の利便性向上と更なる利用促進に向けた環境整備に取り組む。</p> <p>② 仙台圏や日本三景「松島」からアクセスが容易で様々な観光資源を有する石巻圏域の魅力を活かし、鉄道を利用した交流人口の拡大に地域が一体となって取り組む。</p> <p>③ 石巻線が今後も持続可能な地域の重要な公共交通手段としての役割を担っていくため、沿線住民の利用拡大に向けた機運醸成に取り組む。</p>

【取組ポイント】	【具体の取組】	
		※取組みの分類 ◎：実施済、実施中、実施予定 ○：実施に向けて検討中
住民関係	タイプA 住民関係 沿線住民の利用拡大・意識醸成	タイプB まち関係 駅を起点としたまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> 日常利用増加に向けた機運醸成 日常利用の利便性の向上 マイレール意識の醸成 日常以外の利用増加に向けた機運醸成 	<p><日常利用（通勤通学等）の増加に向けた機運醸成> ◎自治体職員による通勤利用を通じた日常利用の増加に向けた機運醸成（石巻市・涌谷町・女川町）</p> <p><日常利用（通勤通学等）の利便性の向上> ◎パーク＆ライドの推進や送迎利用に向けた駅への駐車場の整備を通じた日常利用の利便性向上（石巻市） ◎住民バスなどの運行ダイヤ等の調整による日常利用の利便性向上（美里町・女川町）</p> <p><マイレール意識の醸成> ○ポスターやパンフレット等などの作成を通じた利用促進に向けた住民のマイレール意識の醸成</p> <p><日常以外の利用の増加に向けた機運醸成> ○ホームページ等によるワンマン車両の乗り方の周知 ○小中学生等に鉄道を利用してもらうため、校外学習などでの利用の呼びかけ</p>	<p><駅前のイベント開催による鉄道を利用する人流の創出> ◎地域おこし協力隊活動による駅周辺のまちおこしを通じた鉄道を利用する人流の創出（美里町）</p> <p><駅周辺の整備による交通結節点としての駅の機能の強化> ◎パーク＆ライドの推進や送迎利用に向けた駅への駐車場の整備を通じた駅の機能強化（再掲）（石巻市） ◎小牛田駅周辺や駐車場の整備を通じた駅の機能強化（美里町） ◎浦宿駅の待合所などの整備を通じた駅の機能強化（女川町）</p> <p><二次交通の充実> ◎住民バスなどの運行ダイヤ等の調整を通じたターミナル機能の強化（再掲）（美里町・女川町）</p>
まち関係	タイプC 観光関係 交流人口と鉄道の利用拡大	タイプD 産業関係 人や物の往来拡大による地域産業の活性化
<ul style="list-style-type: none"> 駅前イベント開催による人流の創出 駅の交通結節点としての機能強化 二次交通の充実 	<p><地域資源を活用した鉄道利用の拡大> ◎駅フェス「MISATO」の開催支援通じた鉄道利用と交流人口の拡大（美里町） ◎ご当地有名人を活用した車内アナウンスの実施等の地域資源を活用した利用促進策の展開による交流人口の拡大 ◎市町イベントへの鉄道での来場者限定の特典付与を通じた鉄道利用の拡大</p> <p><沿線地域とJR東日本の更なる連携強化による新たな鉄道需要の創出等> ◎地域の観光資源を活用した石巻線を利用する観光モデルコースの企画による鉄道需要の創出 ◎ローカル線活用型（トレイン＆トレック＆サイクル）旅行商品の造成による鉄道需要の創出</p> <p><県内4路線の連携した需要喚起策の実施> ◎地域の観光資源を活用した県内ローカル線を利用する観光モデルコースの企画による鉄道需要の創出</p>	<p><沿線の事業者と鉄道の利用者を結び付けた産業の活性化> ◎地域を訪れるスポーツ団体に石巻線を利用してもらう、地元事業者と連携した石巻線の利用促進</p>
観光関係		
<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活用した鉄道利用の拡大 地域とJRが連携した新たな鉄道需要の創出 県内4路線の連携した需要喚起策の実施 		
産業関係		
<ul style="list-style-type: none"> 沿線の事業者と鉄道の利用者を結び付けた産業の活性化 		

※1 2022年7月28日 JR東日本ニュース「ご利用の少ない線区の経営情報を開示します」から引用
 ※2 利用者の1日1kmあたりの人数【平均通過人員】＝【各路線の年度内の旅客輸送人キロ】÷【当該路線の年度内営業キロ】÷【年度内営業日数】

【路線の現状】※1		【路線の課題】
対象年度	2020年度	課題① 二次交通との接続が悪く利便性が悪いいため、気仙沼線の利便性が向上する環境づくりが必要。 課題② 観光面での訴求力が弱く長距離利用者が少ないため、沿線地域の観光資源を活用した鉄道需要の創出が必要。 課題③ 沿線地域の都市間輸送はマイカーがそのほとんどを担っており、過度にマイカーに依存しない意識の醸成が必要。
対象区間	前谷地 - 柳津	
平均通過人員 ※2	189人	

【取組の方向性】
<p>① 地域の公共交通の基軸となる生活路線として、二次交通の充実などを図り、地域の実情に応じた駅を起点としたまちづくりに取り組む。</p> <p>② 沿線市町の豊富な観光資源を活用し、地域経済の活性化に繋げるため、鉄道を利用する交流人口の増加に取り組む。</p> <p>③ 鉄道・BRTをはじめとした地域公共交通を持続可能なものとするため、沿線地域が連携し利用促進に向けた機運醸成に取り組む。</p>

【取組ポイント】	【具体の取組】	
	※取組みの分類 ◎：実施済、実施中、実施予定 ○：実施に向けて検討中	
<p>住民関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常利用増加に向けた機運醸成 ・ 日常利用の利便性の向上 ・ マイレール意識の醸成 ・ 日常以外の利用増加に向けた機運醸成 <p>まち関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅の交通結節点としての機能強化 ・ 二次交通の充実 ・ 鉄道利用を促進する中長期的なまちづくり <p>観光関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源を活用した鉄道利用の拡大 ・ 地域とJRが連携した新たな鉄道需要の創出 ・ 県内4路線の連携した需要喚起策の実施 <p>産業関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沿線の事業者と鉄道の利用者を結び付けた産業の活性化 	<p>タイプA 住民関係 沿線住民の利用拡大・意識醸成</p> <p><日常利用（通勤通学等）の増加に向けた機運醸成> ◎自治体職員による通勤利用を通じた日常利用の増加に向けた機運醸成（石巻市・涌谷町）</p> <p><日常利用（通勤通学等）の利便性の向上> ◎パーク＆ライドの推進や送迎利用に向けた駅への駐車場の整備を通じた日常利用の利便性向上（登米市） ◎住民バス等の運行ダイヤ等の調整による日常利用の利便性向上（登米市） ○二次交通の実態把握と実証実験による日常利用の利便性向上</p> <p><マイレール意識の醸成> ○路線の利用促進に向けたシンポジウム等の開催によるマイレール意識の醸成</p> <p><日常以外の利用の増加に向けた機運醸成> ○ホームページ等によるワンマン車両の乗り方の周知 ○小中学生等に鉄道を利用してもらうため、校外学習などでの利用の呼びかけ</p>	<p>タイプB まち関係 駅を起点としたまちづくり</p> <p><駅周辺の整備による交通結節点としての駅の機能の強化> ◎パーク＆ライドの推進や送迎利用に向けた駅への駐車場の整備を通じた駅の機能強化（再掲）（登米市）</p> <p><二次交通の充実> ◎住民バス等の運行ダイヤ等の調整を通じた二次交通の充実による観光利用の促進（再掲）（登米市） ○二次交通の実態把握と実証実験を通じた二次交通の充実による観光利用の促進（再掲）</p> <p><中長期的に沿線へ人が集まる地域づくり・まちづくりの推進> ○人口増加地区への人が集まる地域づくりの推進による沿線の賑わい創出</p>
	<p>タイプC 観光関係 交流人口と鉄道の利用拡大</p> <p><地域資源を活用した鉄道利用の拡大> ○BRT駅内への観光情報発信スペース設置による気仙沼線の利用拡大 ○SNS等の媒体を活用した地域資源の発信による交流人口の拡大 ○沿線の観光地やオルレコース等と関連したイベントの開催による鉄道を利用する交流人口の拡大</p> <p><沿線地域とJR東日本の更なる連携強化による新たな鉄道需要の創出等> ○地域の観光資源を活用した気仙沼線を利用する観光モデルコースの企画による鉄道需要の創出 ○ローカル線活用型（トレイン＆トレック＆サイクル）旅行商品の造成による鉄道需要の創出</p> <p><県内4路線の連携した需要喚起策の実施> ○地域の観光資源を活用した県内ローカル線を利用する観光モデルコースの企画による鉄道需要の創出</p>	<p>タイプD 産業関係 人や物の往来拡大による地域産業の活性化</p> <p><沿線の事業者と鉄道の利用者を結び付けた産業の活性化> ◎駅舎と併設した産直販売施設を活用した地場産業の活性化（登米市）</p>

※1 2022年7月28日 JR東日本ニュース「ご利用の少ない線区の経営情報を開示します」から引用

※2 利用者の1日1kmあたりの人数【平均通過人員】＝【各路線の年度内の旅客輸送人キロ】÷【当該路線の年度内営業キロ】÷【年度内営業日数】